

公益社団法人日本地球惑星科学連合
2023年度(令和5年度)第2回理事会議事録

1. 開催日時 2023年7月26日(水) 9:30-12:00

2. 開催場所 Zoomによるオンライン会議

3. 出席者 理事数 20名
出席理事 18名 (定足数11名)

4. 議長 理事 高橋 幸弘

5. 出席役員

理事 高橋 幸弘

理事 田近 英一

理事 小口 千明

理事 河宮 未知生

理事 堀 利栄

理事 阿部 なつ江

理事 大谷 栄治

理事 川幡 穂高

理事 倉本 圭

理事 成瀬 元

理事 西 弘嗣

理事 長谷川 直子

理事 日比谷 紀之

理事 福山 繭子

理事 沖 大幹

理事 道林 克禎

理事 村山 泰啓

理事 和田 浩二

監事 春山 成子

6. 出席オブザーバー

事務局長 末廣 潔

情報システム委員会委員長

興野 純

ダイバーシティ推進委員会委員長	坂野井 和代
宇宙惑星科学セクションプレジデント	関 華奈子
地球人間圏科学セクションプレジデント	小口 高
地球人間圏科学セクション幹事	松多 信尚
固体地球科学セクションプレジデント	田中 聡
地球生命科学セクションセクションプレジデント	掛川 武
地球生命科学セクションバイスプレジデント	黒柳 あずみ
地球生命科学セクションバイスプレジデント	遠藤 一佳

7. 審議事項

第 1号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議した。これを承認した。

今回承認された 2023 年 7 月 25 日 17 時時点の新入会員を含む正会員をもって、次回の代議員選挙の選挙人とすることを確認した。

第 2号議案 新規委員承認の件

環境災害対応委員会とジャーナル編集委員会の新委員を承認した。

第 3号議案 選挙管理委員会及び選挙日程

2022 年度選挙管理委員会を設置し、案の通り委員を承認した。また選挙日程を案の通り承認した。ただし、選挙日程に修正が必要になった場合は、選挙管理委員会に一任する。

第 4号議案 男女共同参画学協会要望書「科学技術系分野における男女共同参画推進に向けての要望書 (WG 案)」の承認可否について

男女共同参画学協会の要望書「科学技術系分野における男女共同参画推進に向けての要望書 (WG 案)」への賛同について審議した。これを承認した。

第 5号議案 国際貢献賞規則設置の件

「国際貢献賞」の設置について審議した。設置について内閣府公益等認定委員会と相談して進めることとした。

また、個別の賞を設置するのではなく包括的な賞を設置する方が良いという提案があった。

「国際貢献賞」と別途設置するか等、今後検討することとした。

第 6号議案 会長・副会長の選考規則の制定のためのタスクフォースの設置の件

会長・副会長の選考規則の制定のためのタスクフォースの設置を検討した。タスクフォー

スの設置を承認した。

第 7号議案 その他（「大会特別手当」の件）

西理事より緊急動議があり、事務局職員に大会特別手当を支給することが提案された。これを承認した。金額は総務委員会と財務委員会に一任することとした。

また、夏季特別休暇についても総務委員会に一任することとした。

1. 高橋 幸弘代表理事 職務報告

- ・ **International cooperative partners** について、マレーシア、インドネシアの学会と連携を進めており、先方の大会でのセッションの協力を検討している。
- ・ テキスト同時通訳の利用について検討を始めている。同時通訳で翻訳テキストが表示されるシステムがあり、連合大会でも活用することを検討している。多言語対応は今後の方針として重要である、という意見があった。
- ・ 寄附の声掛け先を検討している。
- ・ 人工知能学会との協力企画の準備を進めている。
- ・ 事務局機能の受け入れについてタスクフォースの設置準備を進めている。

2. 田近 英一理事（広報普及担当）職務報告

- ・ 次号 **JGL** の編集作業を進めている。

3. ウォリス理事 職務報告

- ・ 報告を省略した。

4. 小口 千明理事 職務報告

- ・ 報告を省略した。

5. 河宮 未知生理事 職務報告

- ・ スポンサー制度について検討している。引き続き詳細を詰めていく。

6. 堀 利栄理事 職務報告

- ・ **IGC** のサーキュラーが発表されたことについて報告があった。

7. 道林 克禎理事（総務担当）職務報告

- ・ 団体会員の退会について報告があった。
- ・ 共催・後援等とサポートレターの発行について報告があった。

8. 成瀬 元理事（財務担当）職務報告

- ・大会事業収支決算書について報告があった。

9. 和田 浩二理事（大会運営担当）職務報告

○2023 年大会の開催報告

・参加者統計、過去大会との比較などが報告された。また、会場の写真や映像を提示して会場の様子が紹介された。

- ・大会後の巡検についても盛況であった旨報告があった。

・大会終了後アンケート結果の報告があった。大会参加料金は概ね妥当であるとの回答であったこと、オンラインポスターセッションの満足度が高くなかったこと、全体満足度はおおむね良好であったこと、等が紹介された。抽出した主な課題として、特設会場の音響環境、発表者 PC のディスプレイ設定、会場係アルバイトの業務、ポスターフラッシュトークの方式の統一、オンラインポスターセッションの使用状況（学生優秀発表賞のみに利用）、オンライン料金の設定、現地ポスターの番地表示、受付への人員配置、無料 wifi、Confit にログインしない状態でのプログラム表示、が紹介された。

- ・以下、意見交換を行った。

「Confit にログインしない状態でのプログラム表示」については、静的な画面など、簡易的なものでも閲覧できるようにしてほしいという意見があった。

ポスターについて現地とオンライン両方に用意する必要があり、煩雑であったという意見があった。オンラインポスターが必須であるという説明があった。

ポスター会場の特設口頭会場の音響については隣の会場の音声が大きく、セッション運営が困難なほどであったという意見があった。一方、それほど悪い環境でなかった、良かったという声があったという意見があり、ばらつきが指摘された。

オンラインポスターセッションへの現地会場からの参加は、近隣の参加者と互いに音声が干渉し難しかったという意見があった。

オンラインポスターセッションとオンラインポスターについて説明があった。現地参加できない参加者については、予稿投稿時に申請、表示するなどの提案があった。オンラインポスターのコアタイムは口頭セッションを異なる日程に設定する（現地 WiFi 利用上もよいのでは）という提案があった。

海外参加者の増加に関する方策や参加者の意識について質問があった。英語セッションの増加などを行った。途上国支援等についても将来的には検討したいという意見があった。

○2024 年大会の方針

- ・基本的な方針は 2023 年大会を踏襲する。
- ・オンラインポスター有無や方式については引き続き検討する。
- ・CH に特設会場を 2 会場設定し、展示場特設会場は 2 会場にすることを検討する。

- ・口頭セッションでの会場PCについては発表者ツールや自PCを許可することなども含め、検討する。

- ・今後のスケジュールについて説明があった。10月2日にセッション提案受付を予定している。

10. 沖 大幹理事（グローバル戦略担当）職務報告

- ・グローバル戦略委員会開催報告があった。国際戦略に関する議論、GGSTask Team の活動、AGU 出展の準備、パートナーシップ関係にある学術雑誌との連携等の議論について報告があった。

- ・会長から、AOGS から日本大会開催への支援について依頼があったことについて報告があった。

11. ダイバーシティ推進委員会活動報告（阿部担当理事）

- ・男女共同参画学協会要望書の検討について報告があった。

12. 教育検討委員会活動報告（阿部担当理事）

- ・10月アースサイエンスウィークジャパンについて報告があった

- ・10月1日に高校地学基礎に関する集会が開催され、用語の統一について議論が行われる予定であるという報告があった。

13. 環境災害対応委員会報告（沖担当理事）

- ・環境災害対応委員会の活動報告があった。

- ・宮地委員長より、活動報告があった。防災学術連携体への参加、ぼうさいこくたいへの参加予定について報告があった。

- ・高橋会長より、防災学術連携体で途上国からの参加者向けのワークショップを検討しているという報告があった。

14. 情報システム委員会活動報告（村山担当理事）

- ・情報システム委員会の活動報告があった。新会員管理システムの準備、RDM タスクフォースの活動、AGU 関連対応、ORCID Affiliation manager の試行について報告があった。

- ・G7 科学技術大臣コミュニケでオープンサイエンスの推進や FAIR 原則の重要性が言及されたことについて紹介があった。

- ・AGU Informatics Section Executive Committee における JpGU リエゾン対応は村山理事が継続することとなったことの報告があった。

- ・学術会議公開シンポジウム「オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、共有問題の現状と将来」（8月20日）について紹介があった。

15. ジャーナル関連活動報告（倉本担当理事）

- ・ジャーナル関連活動の報告があった。インパクトファクターは引き続き上昇している。投稿・編集についても順調に推移している。
- ・編集委員会・編集長会議の開催報告、PEPS Award, Most Cited Paper Award の紹介があった。

16. 顕彰委員会活動報告（川幡担当理事）

- ・国際貢献賞の検討状況の他、顕彰関連の報告があった。

17. セクション活動報告（宇宙惑星科学、大気水圏科学、固体地球科学）

○宇宙惑星科学セクション活動報告

- ・セクション構成員へのアンケート調査の結果報告があった。世代ごとに国際化の要望が異なる等の結果が報告された。
- ・セクションレクチャー、セクションランチョンの開催について要望があった。AM2に宇宙惑星のパラレルセッションをなくした状態でセクションレクチャーを開催し、引き続きセクションランチョンを開催したいという説明があった。セクションレクチャーは英語を予定している。理事会としては方針を了承した。

○大気水圏科学セクション活動報告

- ・セクション Zoom セミナー、連合大会でのセクション主催セッションという新たな活動の検討を始めているという報告があった。
- ・セクション主催セッションについて、ネットコアで検討していただき、拡大業務執行理事会等で検討を進めることとした。
- ・セクション Zoom セミナーについては、大気水圏セクションに限らず全セクションで開催するのも良いという提案があった。運営体制についても検討が必要であるという指摘があった。広報方法、プラットフォーム等システムについても検討が必要である。まずは大気水圏セクションとして開催準備を進め、情報システム委員会、広報普及委員会とも連携して準備することとした。

○固体地球科学セクション活動報告

- ・就職して学会に参加できない学生の口頭発表、ポスター発表の成立要件について、要望があった。就職して学会に参加できない学生のために、発表成立要件から参加できない第1著者から参加登録料を徴収することを外して、代理発表を許可してほしいという説明があった。
- ・筆頭著者と発表者と投稿者は同一であるというポリシーに則っており、これの変更が可能であれば、対応が考えられるという説明があった。また、システムが対応しておらず現状としては手作業での対応となるという説明があった。

・代理発表を可能にすると参加登録料を支払わずに無制限に発表が可能になり、ここにつけ込んで悪用される恐れがあるので、その点も検討が必要である。

・なお論点は発表証明書が発行可能かどうかという点にはなく、大会において発表が可能かどうかという点にある。

議長は以上をもって、すべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後 12 時 00 分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

2023 年 7 月 26 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 2 回理事会

出席理事 高橋 幸弘 印

出席理事 田近 英一 印

出席理事 小口 千明 印

出席理事 河宮 未知生 印

出席理事 堀 利栄 印

出席理事 阿部 なつ江 印

出席理事 大谷 栄治 印

出席理事 川幡 穂高 印

出席理事 倉本 圭 印

出席理事	成瀬	元	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	長谷川	直子	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	福山	繭子	印
出席理事	沖	大幹	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席理事	和田	浩二	印